

vol.  
06



しんどさんこばなし

一步先の、新とさんこを  
新とさんこ研究所  
山岸所長が訪れる

# 今金町が育んだ おいしさを届けたい。 新・農業人の挑戦



新とさんこ

#06

仁木宏直さん

今金町生まれ。18歳で札幌の生花店に就職後、2005年、人材派遣会社に転職し東京へ。営業を経て人事や総務を経験する。その後スマートフォンアプリの製作会社に転職、バックオフィス全般の部門長を務める。2015年、今金町へ戻り、実家の「仁木農園」五代目として就農。JA今金町青年部副部長、道南地区農協青年部理事。

● 仁木農園 ● 瀬棚郡今金町字田代6-5

メール: nikihiromasa@gmail.com

※アスパラガスの注文はメールにて受付(4月~8月)  
※今年の受付は終了

## サラリーマンから農業人へ

道南に位置する今金町は、ジャガイモの「今金男爵」などで知られる、農業が盛んなまちだ。中心部を流れる後志利別(しりべし)としべつ川は清流日本一を誇り、今金やその周辺地域では早くから、この水を利用して農業が営まれてきた。仁木農園の敷地内にもこんなと伏流水が湧き出し、水の豊かな土地であることを教えてくれる。

「今金の農作物は、こんなにきれいな水で育てているんだから絶対おいしいに決まってる。でも、道内でも今金町の名はあまり知られていないんです。町とともに、今金産のおいしさを多くの人に知ってほしい」。そう熱っぽく話すのは仁木宏直さんだ。2年前、実家の農業を継ぐことを決意し、東京でのサラリーマン生活に見切りをつけて故郷の今金町に戻ったばかり。今は父の下で働き、農家としての経験はまだ浅い。だが、仁木さんは今金の農業に、これまでとは違う可能性を見いだしている。

## 若い人材が、農業を引っ張る

特に注力しているのがアスパラガスだ。今金町では主力の米やジャガイモなどに比べて、生産量が少なく、単に北海道産としてしか扱われてこなかった。しかし仁木さんは、今金産アスパラとして発信しようと、京都の老舗漬物店とともに「アスパラ漬物」の商品化に取り組んでいる。「アスパラは、贈られた人が本当にうれしそうな顔をすると、どんな環境で作物が作られているかといったストーリーが伝わりやすいと思います」。

今金町は40歳未満の若い後継者が多いという。これからの農業人は、農業以外の事業者とも手を携えていく企画力や行動力が必要だと、仁木さんは語る。「将来のために今金町、そして道南の農業を引っ張っていく人材を育てたい」と、意気込みを見せた。



北海道女性の40%は  
外食よりも、家食の方が好き。  
北海道民の食行動意識はこちら

<http://shindoken.com>

新と研

新とさんこ研究所

インタビュー

新とさんこ研究所 所長

山岸 浩之

Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。

コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

